

『韓国：紅葉ハイキング』実施報告

岩と紅葉と大展望の『北漢山』と『冠岳山』を歩いて

海外委員会委員長 安彦秀夫（東葛山の会）

10月18日（金）～21日（月）の3泊4日で、韓国の首都：ソウル周辺にある花崗岩の『北漢山（プッカサン）836m』と『冠岳山（クァナクサン）629m』を、好天の下、県連の仲間16名で楽しみました。筑波山と同じくらいの低山にも関わらず、変化に富んだコースでスリルを味わいながら、周囲の大展望も思う存分に堪能しました。



参加者の皆さんから『山歩き』、『観光』、『韓国料理』、『ビール』、『ガイド』など多岐にわたる心に残った『思い出』や『写真』を投稿していただきました。これらを『特集』として編集し、多くの皆さんに韓国のハイキングの楽しみの一端を感じていただければ幸いです。

是非、報告文を読みながら、そして写真を見ながら、韓国の低山・料理などをイメージして、参加者とともに韓国を味わっていただきたい…と思います。

私からは、企画から本番までの経緯・裏話などを紹介したいと思います。そして、読者の皆さんが、これから海外トレッキングを企画・実施する際の一助にいただければ幸いです。

<1> 目的地選定

昨年2023年秋の『ネパールトレッキング』から帰国し、『2024 ちばニュース 1月号（特集：ネパールトレッキング）』掲載後、今年2024年の海外山行の目的地選びを始めました。

多くのハイキングの層の会員が参加し易いように『近い』、『低山』、『短期間』、『展望』、『リーズナブルな旅行代金』そして『紅葉』などをキーワードにして選んだのが、韓国ソウル近郊の今回の山でした。

海外委員会で『韓国：紅葉ハイキング』を提案し了承を得た後、これまでに何度かお世話になった旅行会社『ワイルド・ナビゲーション』に相談し、『日程』と『募集人数』などを示し、旅行代金と具体的な日程案（山2座）などを提案していただきました。

<2> 参加者募集

『2024 ちばニュース 6月号』に『参加者募集案内』を掲載しました。

問い合わせが幾つかあった後、じわじわと参加申込みがあり、旅行会社とも相談しながら『7月号』そして『8月号』にも案内を掲載し、8月中旬に『17名』で最終締め切りとしました。

<3> 旅行手配正式依頼とハイキング地図入手依頼

参加申込者の『申込書』、『パスポート・コピー』そして『ホテル部屋割り（予定）』などを旅行会社にメール送付し、航空券とホテルなどの正式手配をお願いするとともに、改めて旅行代金の見積もりをしていただきました。

並行して、初めから『ハイキングコース地図』を探していましたが、「これだ！」というものが見つからず、何度も旅行会社にお問い合わせしました。しかし、日本の『山と高原地図（昭文社）』のようなものはなく、概略地図しか入手できませんでした。

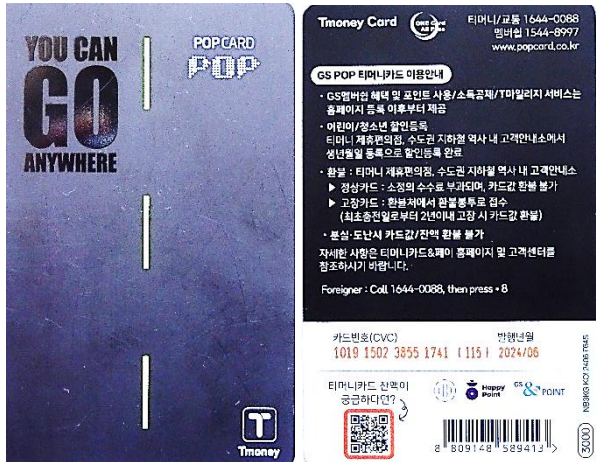
<4> 説明会開催

9月17日（火）に、鎌ヶ谷市中央公民館（東葛山の会で例会会場などとして利用）で、旅行会社担当者（社長）に来ていただき、参加者の顔合わせを兼ねて説明会を開催しました。

参加申込者 17 名全員が集まり、熱心に社長からの説明を一通り聞いた後、質疑応答に移りました。次から次と質問が出てきて、一つ一つ丁寧に説明をしていただき、参加者全員が「韓国ハイキングに行くんだ…」というムードが盛り上がった印象を持ちました。

更に、出発の準備をしていると、新たな疑問・不安などが出てくるので、出発直前の10月12日（土）に、Zoomで『不安解消・軽減（？）説明会』を開催し、次の事項などを説明・再確認しました。

- ① 持ち物（手荷物か機内預けか）
- ② 両替（参加者全員に一人当たり「5,000円分」を現地で準備してもらう）
- ③ T-money（現地で地下鉄とバスを利用する際やコンビニなどでの買い物に使用）
- ④ 成田空港集合時間1時間前倒し（当初12:00 → 11:00）
- ⑤ ホテル部屋割り（9/30に1名キャンセル → 再度部屋割り）
- ⑥ チップ制は無いが、『チャーターバス運転手（往路・復路別々）』、『登山ガイド』、『日本語スルーガイド（黄さん）』にお渡しした方が好ましい…と判断。
→成田空港で「1万円（上記②③含む）」を集金する…旨の了解を貰う。
- ⑦ 「パスポートを忘れずに持参してください…」と再三注意しました。



The image shows the front and back of a T-money card. The front (left) is dark blue with 'YOU CAN GO ANYWHERE' and 'POPCARD POP' text. The back (right) is white with Korean text detailing card features, contact information, and a QR code for verification.

『T-money』（左：表面、右：裏面）

Suica やPASMO のようなモノです。

今回は、宿泊ホテルから登山口までの移動は、『地下鉄』を利用する…ということで、毎回チケットを購入するのでは大変なので、事前に現地ガイドに人数分を購入してもらいました。コンビニなどでの支払いにも利用できます。カード代：₩3,000-（約330円）
チャージ金額：₩17,000-（約1,870円）

適宜自分でチャージします。今回は、地下鉄とバス利用だけでしたので、追加チャージしなくて済みました。

<5> ハプニング続出

予期せぬことが続出した4日間でもありました。その中から幾つかを紹介し、今後類似のトラブルに見舞われないように、また、未然に防ぐための心得としていただければ幸いです。

- ① 自宅を出る直前に「眼鏡」を拭いていたら突然「右のレンズ」が外れました。ツル部分のネジが腐食して折れており、ネジは穴に残っており取り出すことができず、裁縫用糸で固定しました。「旅行中に糸が切れないだろうか…」と不安を持ちながら家を出ました。帰国後、眼鏡店で修理してもらいました。(私)
- ② 民間駐車場に車を預け、空港まで送ってもらい、集合場所に向かいました。ところが、それらしき場所が見つかりません。しばし周りを見て「出発フロア」ではなく「到着フロア」であることに気が付き、エレベーターを利用して事なきを得ました。いつも、「出発フロア」に送ってもらっていたので、疑いもありませんでした。サービス内容を変更したのかも…。未確認です。(私)
- ③ 成田空港での出国手続きの際に、「パスポート」をどこにしまったのか分からなくなり通過に時間を要した人がいました。海外に行く場合は、非常に重要で大切なパスポートです。嚴重にしまうのは良いのですが、どこにしまったのが分からなくならないようにしてくださいね。
- ④ 仁川空港での入国手続きの際に、機内で記入した「入国カード」を見失い、再度記入してやっと入国できた人がいました。パスポートと入国カードを一緒しておくことをお勧めします。飛行機に乗っている時間+ α の短い時間だけですの…。
- ⑤ 北漢山ハイキング後の夕食のレストランへの歩きはとても辛かったです。「北漢山登山の最寄り地下鉄駅から10分」ということでしたが、歩いても歩いてもなかなか着かず、やっと見えたと思ったら、横断歩道がなく渡れず、ズ〜っと先まで行ってやっと横断しました(でも横断歩道ではありませんでした…)。全員からブーイングが出たことは言うまでもありませんでした。

一方、ガイドの黄さんのお勧めのレストランということもあり、料理とビールには皆大満足でした。ホテルにはタクシー4台に分乗して戻りました。
- ⑥ 冠岳山ハイキングに向かう日の朝食時に「4名」が体調などを考慮して不参加となりました。夕食は、下山後ホテルに戻らず、途中で摂ることになっていたため、ガイドの黄さんに電話をかけ、状況を説明し、「ホテル15:00に迎え」をお願いしました。4名は自力で観光と昼食を楽しんだようです。夕食会場ではお互いに笑みで再会しました。突然の一方的なお願いに対して、快く対応していただきました黄さんに感謝です。黄さん、ありがとうございました。
- ⑦ 帰国日、仁川空港にバスで向かいました。降りて直ぐチェックインカウンターを探しましたが、『大韓航空』は見当たりませんでした。勿論、出発案内にも私たちの搭乗するフライトの表示がありませんでした。

やっと、ターミナルが間違っていたことに気が付き、スーツケースを持って

シャトルバスで移動しました。乗車時間が長いこと長いこと…。時間に余裕を持って行動していたので、大きな問題にはなりませんでしたが、「こんなこともあるんだな…」と再認識した次第です。



<6> 食事

夕食3回(10/18、10/19、10/20)と昼食1回(10/21)をガイドの黄さんの紹介・案内で、毎回異なる韓国料理を地元のビールとマッコリを飲みながら堪能しました。

全ての料理に全参加者が「旨い!」、「美味しい!」と声を上げていました。私も大満足の食事でした。特に『2日目(10/19)』の北漢山下山後の店自慢の特製『タッカルビ』は気に入りましたね。「独特の味と辛さ」に魅了されました。

また、2度の登山の際の昼食用に購入した『キンパ』は、ハイキングの際の食料としては絶品ですね。日本でも登山口の最寄り駅周辺に類似のものがあると便利だな…と思いました。購入した時は、「昼食用として、これ1本で十分かな…?」と思ったのですが、いざ食べてみると満足のいく十分な量でした。

一方、ホテルの朝食は、「パサパサした食パン」でしたので、ただただ強引に紅茶で流し込んだ…という満足感のないものでした。これが3日も続いたのです…。

昼食と夕食は大満足のソウル滞在でした。

<7> スルーガイドの「黄さん」

仁川空港でお会いした瞬間から、非常に親しみを感じました。特に、バスの中での自己紹介が印象的でした。

「私に声をかける時は『綺麗なファンさん』と呼んでくださいね…!」

それ以降、いつも「綺麗なファンさん!」と先ずは切り出して、色々なことを相談そしてお願いをしました。その都度、懇切丁寧に対応していただきました。不慣れた土地で心強いガイドさんでした。安心して、「任せ、頼り…の4日間」でした。

綺麗な黄さん、ありがとうございました。

<8> 登山ガイドの「權さん(日本語OK)」と「李さん」

北漢山と冠岳山のハイキングを案内してもらいました。

『山岳ガイド』ということでしたが、ホテルで紹介された時の服装にびっくりしました。というのは、登山時のズボンとしては推奨されないジーパンだったからです。

登山道の至る所に標識はあるのですが、『ハングル語』なのでチンプンカンプン…。所々に、英語、中国語、そして日本語(カタカナ)が併記してあり何となく分かるのですが、2人がいなければ自信をもって歩くことはできなかったと思います。お二人の案内で楽しく歩くことができました。心強いガイドさんでした。

登山前の準備体操は極めてユニークで、自然に笑みがこぼれ、気持ちよく歩きだすことができました。

權さん、李さん、ありがとうございました。

<9> 降りた駅から歩き出せる…

30分前後の乗車で『地下鉄』の駅を降りたら、直ぐ登山ができる…というのは、山歩きを趣味とする私達にとっては嬉しいことです。『六甲山』を何度かに分けて歩いた時のことを思いだしながら花崗岩の道を歩いていました。コース途中から眺めるソウル市街の景色も神戸の街を眺めているようにも思えました。

ソウル周辺には、手ごろなハイキングコースが沢山あるようで、ネットには、『ソウル5山』という言葉も見受けられます。今回はその中の『2座』を歩いたので、残りの『3座』も是非とも歩いてみたい…と思っています。



街中の舗装路に埋設→

<10> おわりに…

大きな問題もなく、参加者16名がハイキングを楽しみ、韓国料理と地元のビール、そしてマッコリを堪能し、思い思いのお土産をゲットし、無事帰国できたことは、企画した者として嬉しい限りです。併せて、ホッとしています。

また、参加の皆さんから、「思っていた以上に歩きであり楽しかった…」、「夕食や昼食は美味しかったね…」、「また来たいね…」などという声を耳にすると、企画者冥利に浸る瞬間でもあります。

参加者の皆さんのご協力で、今回の海外ハイキングを無事終了できたことを感謝します。また、旅行の手配をしていただきました旅行会社『ワイルド・ナビゲーション』の『宮田社長』、現地でお世話になりました『黄さん』、『権さん』、『李さん』に感謝申し上げます。ありがとうございました。直ぐにでも、また韓国を訪れたいと思っています。

ソウル・タワー

北漢山



Naksan Park からの大展望（スイング・パノラマ撮影）



帰国日（10/21）午前の市内観光（Naksan Park：ナクサン公園）

雨は降っていません！ 目印です！